第1回 厚木市複合施設整備に向けたワークショップ 開催概要

タイトル	第1回 厚木市複合施設整備に向けたワークショップ	
開催日時	平成31年4月21日（日） 13:00～16:30	
開催場所	厚木市役所 第二庁舎16階会議室	
参加者数	23人	
担当課	市街地整備課	
結果公開日	令和元年5月24日	
会議の経過	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 複合施設整備についての概要説明 3 ディスカッション 4 発表 5 講評 6 閉会 	
会議の内容	「図書館、未来館、市庁舎の複合化の可能性について」をテーマに、班ごとに意見を出し合い、どのような複合施設を目指すのか、キャッチフレーズをつけて発表を行いました。	
発表の概要		
班	発表タイトル	主な意見
A	あつまる樹・気・器 (各施設を目的に訪れた人々が自然と集まり、世代を超えて交流が行われるように、街にひらかれた施設を目指しました。)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の核となる広場を設け、窓口機能、総合案内、特別展示、談話室、飲食スペース、市民交流スペース、キッズスペースの機能を設ける。 ・科学にふれあう空間として、天体観測設備、プラネタリウム、実験・工作室、企業・大学の展示スペースを設ける。 ・議場を“見える化”し、市民も使えるようなホールとするなど、開かれた空間とする。 ・市のPR空間として、市外から訪れた人が厚木市に住みたいと思えるようなコーナーを設ける。

B	<p>属性・世代を超えた タテ・ヨコ不問の交流 (子どもと高齢者が自然と集まれるような施設にするために、施設の各機能が緩くつながり、融合・交流できる滞在型の施設を目指しました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ、緑の空間を設け、子どもたちの遊びや学びの場、市民の憩いの場とする。 ・大学、企業と連携し、活動の発表が行える場所や、課外活動、大学間・企業間交流の場所を設ける。 ・カフェ、レストランなど、市民が日常的に使う機能を導入する。 ・シンボルとなる施設を設け、認識しやすく、親しまれる施設とする。
C	<p>3世代で1日過ごせる新施設 (3世代で1日過ごせるために、必要となる“食べる”“遊ぶ”“学ぶ”活動について、各施設を連動させる仕組みや機能をもった施設を目指しました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食可能な閲覧席を設け、長い時間を過ごすことができるような施設にする。 ・特別展示と関連する図書を開架スペースに配架し、展示で不思議に思ったことや関心を持ったことをすぐに図書館で調べることができるようにする。 ・(仮称) こども未来館の展示と関連するメニューを食べることができるレストランを設ける。 ・科学展示コーナーと市内企業が連携した展示会を実施する。 ・災害対応と特別展示を併せ、災害時の心得や庁舎の構造を学べるコーナーを設ける。 ・議場の見学会を行い、大人だけでなく子どもたちも議会への理解を深められるようにする。
D	<p>学び育む複合施設 (施設単体で学び、育む場とするのではなく、市民と共に学び、育み、成長できるような施設を目指しました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスにフリースペースを設け、活動の発表、展示ができるスペースとする。 ・プラネタリウム、天体観測設備にカフェ・ショップを設け、飲食しながらプラネタリウムを観られるようにする。 ・相談室、総合案内、市政情報コーナーを併せ、市内の観光情報や図書館のことを調べられるコンシェルジュを設置し、困ったことを気軽に相談することができるようにする。
E	<p>全世代が集える施設 (世代を超えて交流することで、新しい気づきや発見を生み出すような、全世代が集いたいと思う施設を目指しました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雨でも集え、イベントにも使える広場を設ける。 ・空いた時間に立ち寄ることができるようなプラネタリウムやカフェを設ける。 ・情報通信技術の発展に対応した施設とする。 ・住まいや子育て、健康など、様々な暮らしを豊かに関する情報を得ることができる施設を設ける。 ・本厚木駅前東口地下道や厚木サンパークなどの周辺施設と連携する。